

吉井川橋梁の設計について

国鉄構造物設計事務所 小寺重郎

本橋はスパン 3×33.2 mの連続はりP C鉄道橋であり、わが国で最初のパウルーレオンハルト工法によるP C橋梁である。設計は国鉄構造物設計事務所で今春終了し、レオンハルト事務所で審査をうけた。その結果僅かな変更を除き、ほとんど原設計のままで、今秋工事することになった。施工は大成建設株式会社が行う。

箱型断面で桁高は径間部で 1.80 m、支点上で 2.20 m、各W e bに一ケづつ、集中方式P Cケーブルが布設される。P Cケーブルは $3/8$ "ワイヤストランド(7本より)196本よりなる。中間橋脚上に目地を設け、そこに500 tジャッキ4台を入れて、側径間の桁を押し出し約1,800 tのプレストレス力を導入する。

設計の細部については図面によつて講演時に説明する。

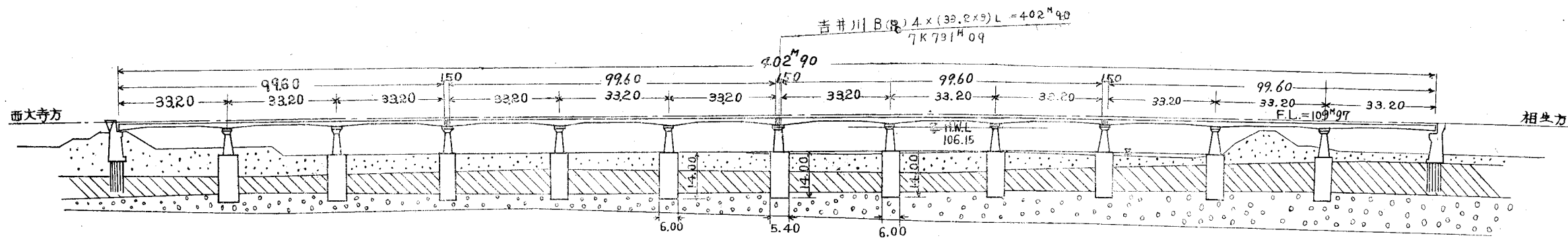


図-1

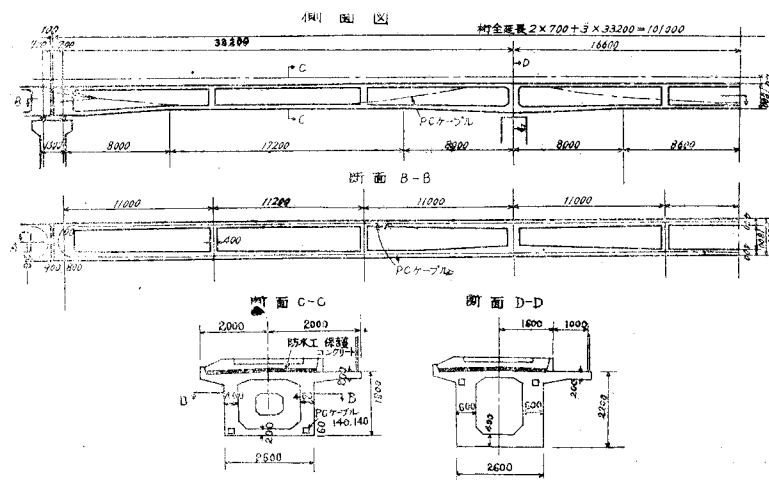


図-2

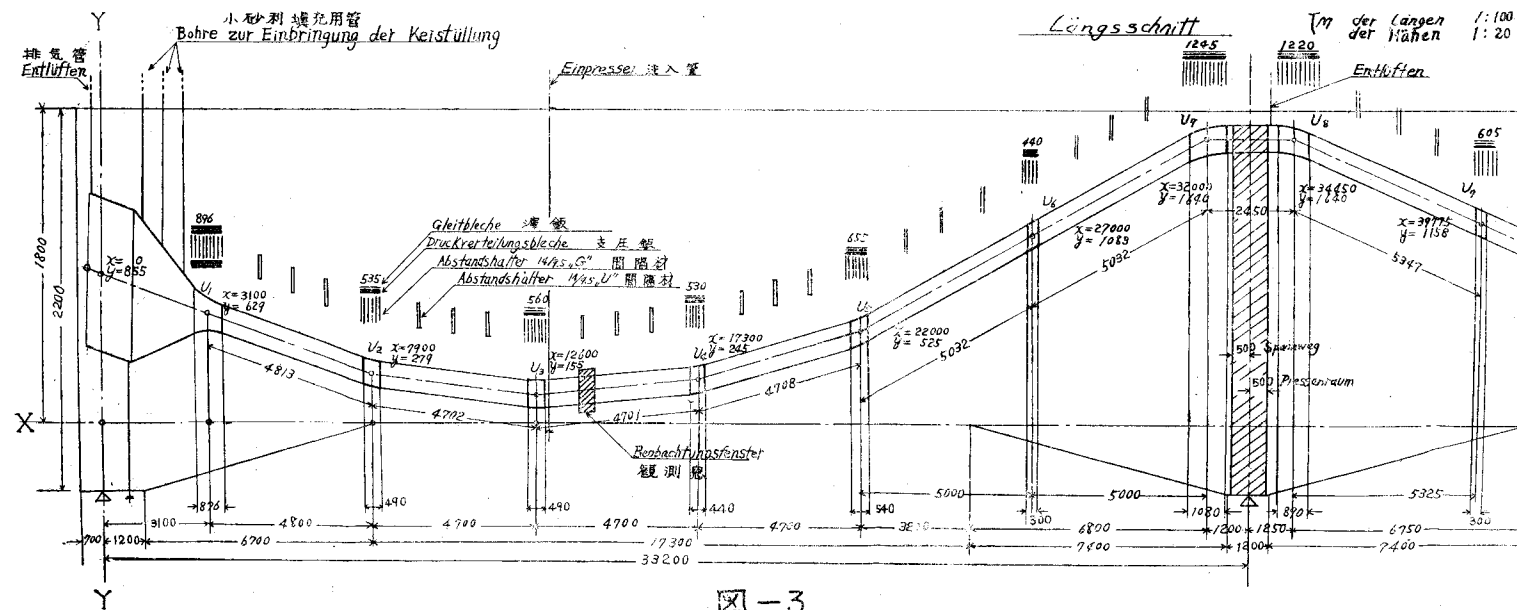


図-3

